

内科

当院内科で行っている専門的な外来診療を紹介します。

リウマチ・膠原病

■関節リウマチ

関節リウマチはあちこちの関節に腫れや痛み(関節炎)が起り、次第に関節が破壊されてくる病気です。

40~50歳代の女性に発病しやすく、60歳以上の女性では1.5%にも及ぶ身近な病気と言えます。

一旦発病すると生活は激変します。「朝、手が痛くて動かせない」「歩く度に痛い」など。家庭や職場で「痛い、痛い」と言い続けるわけにもいかず、精神的にも辛い日々が続きます。

当科ではこの病気についての理解を深め、患者さんの立場にたった診療を行っています。手や肘が痛むだけで料理や洗濯がどれほど難しいか、足や膝が痛むだけでどれほど楽しみが減ったことか。これらの関節炎を早期に診断・治療することによって関節破壊を防ぐことが大切です。

ピロリ菌

■ピロリ菌とは

「ヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)」とは、胃の粘膜に生息しているらせん形をした細菌です。約3μmのらせん状の細菌で、数本のペニン毛を持っています。

このペニン毛を回転させて動き回り、胃の粘膜の表面や細胞の間に入り込んで炎症を起こします。

従来、胃潰瘍や十二指腸潰瘍は、攻撃因子(ストレス、アルコール、胃酸など)と防御因子(胃粘液、粘膜血流など)のバランスが崩れることによって発症すると考えられていました。しかし、近年、ピロリ菌も有力な原因の一つであることが明らかになりました。

■舟入病院では

まず、外来受診時に問診を行います。胃・十二指腸潰瘍の既往がある・持続する胃部不快感などの自覚症状がある場合、必要に応じて胃カメラ検査を行います。

検査の結果、潰瘍などがありピロリ菌陽性と判定されれば、ご相談のうえ除菌療法を開始します。治療効果判定は後日行います。

胃部不快感・胃十二指腸潰瘍の既往がある方で、ピロリ菌の検査を受けたことのない方、一度舟入病院の消化器医にご相談ください。

糖尿病

■怖い合併症

糖尿病は国民病と呼ばれるほど有病率が高く、糖尿病患者は増加の一途をたどっています。

慢性的な高血糖が続くと、糖尿病に特有な細小血管障害(網膜症・腎症・神経障害)や虚血性心疾患や脳梗塞、閉塞性動脈硬化症などの大血管障害が生じやすくなります。



近年、生物学的製剤が開発され、関節リウマチの診療は大きく変わりつつあります。当院ではこれらの薬を導入し、積極的に関節炎を管理する一方で、これらの薬が使えない患者さんにも最良の治療が行えるよう心掛けています。

■膠原病

膠原病は自己免疫性疾患とも呼ばれます。免疫とは、「細菌やウイルスなどの感染症と戦うためのシステム」のことを言うのですが、この免疫があろうことか自身の臓器を攻撃してしまうという困った病気です。

ときに、肺や腎臓などの全身の臓器を侵すこともあります。しかし、病気の始まりは手指の痛みやむくみ、発疹、目や口の乾燥といった軽い症状です。寒い朝に手指が真っ白～紫色になって冷たくなってしまう症状(レイノ現象)も膠原病を疑う大切な症状のひとつです。これらの軽い症状にも目を光させておくことが私たちの仕事です。

関節リウマチや膠原病を治療するためには正確な診断が大切です。ご心配な方は、お気軽にご相談ください。



睡眠呼吸障害

■睡眠時無呼吸症候群とは

「睡眠時無呼吸症候群(SAS)とは、睡眠中に何度も呼吸が止まってしまう病気です。SASの中でも、上気道の閉塞により生じる閉塞型のSAS(OSAS)が最も多いタイプです。OSASがあると、睡眠の質が低下するため、日中眠くなる、集中力がなくなるなどの症状が出てきます。

また、高血圧、虚血性心疾患、脳卒中などの心血管系統疾患のリスクが高くなることが知られています。

■舟入病院では

睡眠呼吸障害の外来は予約制で、原則として金曜日の午後に行っています。外来時に問診を行い、必要に応じて血液検査や心電図、レントゲン検査を行います。

水曜日の夕方から翌朝までの一日泊入院(予約制)時に終夜睡眠ポリグラフィ(PSG)検査を行います。この検査で睡眠中の呼吸状態、脳波の変化、低酸素血症の程度などを評価し、OSASの診断と重症度判定を行います。

検査結果は、10日～14日後に説明します。PSGの結果をもとに、それぞれの方に適した治療方法を決定します。

いびきが大きい、睡眠中に呼吸が止まるなどの症状がある方や、睡眠時間を長くとっていても日中強い眠気が起きる方は、一度、お気軽にご相談ください。



このような合併症を予防するためにも、糖尿病の早期診断、食事・運動療法の指導、適切な薬物療法の選択を患者様が具体的に実行しやすい方で提供するよう心掛けています。

■専門外来・教育入院

当院では週2回糖尿病専門外来を行っています。また、重度の糖尿病の場合は、教育入院を行い、合併症精査や血糖コントロールを行っています。

ご心配な方は、一度、当院の専門医にお気軽にご相談ください。

高血圧

食塩の取り過ぎ、過度の飲酒、喫煙、肥満、ストレス、睡眠不足などが原因と言われる高血圧。

長い期間無症状が続くため、病気と気付かず放置しがちですが、ある日突然、狭心症、心筋梗塞、脳出血、脳梗塞、腎不全などの命にかかる合併症に襲われます。

舟入病院では、まず十分な問診を行い、必要によっては血液・尿検査、胸部レントゲン撮影、心電図、24時間血圧計などの検査を行います。その結果、必要と判断された方には、心エコー、頸動脈エコー、腹部エコー、CT検査などの追加検査を行います。

これらの検査を経て、それぞれの方に適した食事療法、運動療法、薬物療法を行います。



診療日時は火・木曜日の午後1時～3時で、事前にご予約ください。高血圧で治療中の方、治療はしていないけれど血圧に不安のある方、お気軽にご相談ください。

外科

舟入病院外科は、消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医、ヘルニア外科専門医、肝臓外科医などの専門医の集団です。経験10年以上のベテラン医師のみで構成されています。

心のこもった外科医療を当院外科の理念として掲げています。一般的な外科診療に加えて専門的領域として

- 1 胃がん・大腸がん早期手術システム
- 2 がん化学療法・緩和ケア
- 3 ヘルニア(日帰り～2泊程度、中四国地区最大手術数)
- 4 膽のう、肝脾外科
- 5 腹部救急医療



小児外科

▲左から金廣医師、山岡医師
田崎医師、市川病院長
日野医師、津村医師

■小児外科とは？

大人は内科、子どもは小児科と分かれているように、外科でも子どもを専門に治療する小児外科が次第に知られるようになってきています。

子どもには子ども特有の疾患が多くみられます。単に大人を小さくしたものではありません。発育過程にある子どもの治療に当たっては精神的、身体的発育を考慮することが大切です。子どもの手術は、大人の手術を行っている医師ではなく、子ども専門の小児外科医が行うべきものとされています。

■小児外科はどんな病気を手術するの？

小児科が大人の内科のように細分化されていないように、小児外科も大人の外科ほど細分化されていません。

当院では、脳外科、整形外科、心臓外科、眼科を除く子どもの病気、具体的には、消化器、呼吸器、泌尿器、耳鼻喉科領域の一部、その他の小児一般外科の手術的治療を行っています。

当院の子どもの手術件数は年間200件前後で、鼠径ヘルニアの手術が一番多いのですが、小児救急医療拠点病院に指定されているため、急性虫垂炎などの急性腹症の治療も多いのが特徴です。